

第5回講座

中学校への接続の期待

令和2年12月22日

明海大学 教職課程センター・地域学校教育センター

教授 石鍋 浩



中学校への接続の期待

- 1 中学校へつなぐために小学校でどこまで指導すべきか
- 2 中学校での授業のようす（動画視聴）
- 3 小中連携の重要性



中学校へつなぐために小学校でどこまで指導すべきか ～学習指導要領 目標～

小学校外国語活動 (3・4年)	小学校外国語 (5・6年)	中学校外国語
<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>



中学校へつなぐために小学校でどこまで指導すべきか ～学習指導要領 目標(1):知識及び技能～

小学校外国語活動 (3・4年)	小学校外国語 (5・6年)	中学校外国語
<p>外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。</p>	<p>外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。</p>	<p>外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。</p>



中学校へつなぐために小学校でどこまで指導すべきか ～学習指導要領 目標(2):思考力、判断力、表現力等～

小学校外国語活動 (3・4年)	小学校外国語 (5・6年)	中学校外国語
<p>身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p>



中学校へつなぐために小学校でどこまで指導すべきか ～学習指導要領 目標(3) : 学びに向かう力、人間性等～

小学校外国語活動 (3・4年)	小学校外国語 (5・6年)	中学校外国語
<p>外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>



中学校へつなぐために小学校でどこまで指導すべきか

■学習指導要領「第2節 英語 1 目標」



目標のつながり 「聞くこと ア」

【中学年】

- ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。

【高学年】

- ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。

【中学校】

- はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。



目標のつながり 「話すこと[やり取り] ウ」

【中学年】

- サポート受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

【高学年】

- 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。

【中学校】

- 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。



英語の文字の扱い方

【中学年】

言語活動に関する事項「聞くこと」

- 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体で書かれた文字と結びつける活動



英語の文字の扱い方

【中学年】 具体的な活動として

- 大文字と小文字の名称を表す読み方を聞いて、
「活字体を指さす」
「発音された順に文字カードを並べ替える」
「友達と一緒に文字の形を体で表現」
「小文字を1階建て、2階建て、地下室と仲間分け
する」等 **体験的に文字に親しむ**



英語の文字の扱い方

【高学年】

言語活動に関する事項「読むこと」

- 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動



英語の文字の扱い方

【高学年】 具体的な活動として

- 中学年での慣れ親しみ



- 名称を発音できるようにする ei/bi:

異学年での学習内容の把握を



言語活動に関する事項「書くこと」

【高学年】

- (ア) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を**書く活動**。
- (イ) 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を**書き写す活動**。



言語活動に関する事項「書くこと」

【高学年】

- (ウ) 相手に伝えるなどの目的をもって、語と語の区切りに注意して、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。
- (エ) 相手に伝えるなどの目的をもって、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。



中学校での授業の様子

文部科学省動画 中学校1年生

「Small Talk やり取りをしながら指導する方途例」

- [中学校の外国語教育はこう変わる！②「言語活動を通して、言語材料を学ぶ」 - YouTube](#)



中学校での授業の様子

- コミュニケーションを通して、言語材料（過去形）について教える授業例。
- 中学校学習指導要領では、「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする」とされている。
- 本動画では、言語活動に取り組みせる前に、使わせたい表現（過去形）を教える方法の例を紹介している。



中学校での授業の様子

【授業の展開】

- ①教師と生徒とのやり取りの中で、Did you ~? や I ate ~.などの表現を聞かせる。
- ②生徒は、文脈の中で、「過去のことを言っている」「こう言えばいいのか」など推測しながら、やり取りに参加する。
- ③「today's breakfast」というトピックでSmall Talk（話すこと [やり取り]）をする。



小中連携の重要性

～平成30年度「英語教育実施状況調査」(文部科学省)～

生徒の英語力向上に向けた分析(中学校・高等学校)

以下のような**授業改善に関する項目**等の数値が高い都道府県・指定都市ほど、生徒の英語力に関する指標を満たしている割合が高い。

→生徒の英語力を高める上で、各都道府県・指定都市において、これらの取組の実施率を総合的に高めることが求められる。

■生徒の英語力に関する指標と相関が見られる調査項目

中学生 (CEFR A1レベル (英検3級) 相当以上)	高校生 (CEFR A2レベル (英検準2級) 相当以上)
・ 小中連携の実施 (特に小中連携カリキュラム作成)	・ ICTを活用している学科の割合
・ 教師が発話を概ね(75%以上)英語で行っている割合	・ CEFR B2相当以上の資格を有する教師の割合
・ 授業の大半(75%以上)で生徒の言語活動を行っている学校の割合	・ ALTを活用した授業時数の割合
・ 話すこと・書くことのパフォーマンス評価の実施割合	・ 「話すこと」「書くこと」のパフォーマンステスト(評価)を実施する学科の割合
・ ICTを「話すこと」の言語活動に活用している学校の割合	・ 授業の半分以上で生徒の言語活動を行っている学科の割合
等	等

(注) 上段は項目間で正の相関 ($r \geq 0.4$)が見られた項目、
下段は弱い正の相関 ($0.4 > r \geq 0.2$)が見られた主な項目について記載。



考察と今後の英語教育の方向性(案)

(調査結果から見える成果と課題)

- ・ 小学校外国語活動について、専科指導や学級担任間のいわゆる授業交換などの**指導体制の工夫**が進められている。(P2)
- ・ **小中連携の推進、ICTの活用**などの取組を行っている学校が多い都道府県は、中学生・高校生の英語力指標の到達度が高い傾向がある。ただし、**取組状況について自治体間で差**がある。(p13)
- ・ **ALTの活用**は小学校を中心に着実に充実が進められている。ただし、中学校以降の英語力向上や授業改善(言語活動の割合など)につながっているかどうかについては、自治体により差がある。(p11)

(方向性)

- ・ 各小学校の実情を踏まえた指導体制の充実、工夫を進める。中期的には専科指導を担当できる小学校教員を増やす (P15)
- ・ **専科指導のための加配措置**の効果的な活用・小学校教員が中学校の英語免許を取得する**認定講習の開設**を支援
- ・ **小中接続を踏まえた中学校の指導資料**の作成 (H31.3公表)
- ・ 優れた外部人材の教員としての活用(特別免許状等の活用促進など)
- ・ **ALT活用の好事例の共有**、JET-ALT来日時研修など



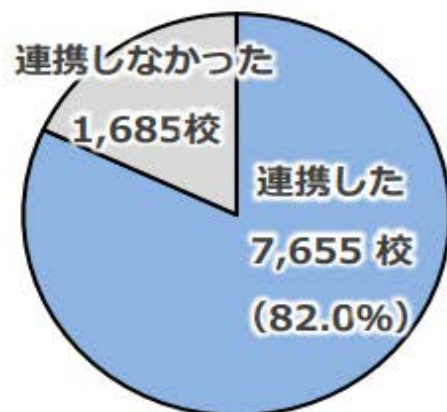
小中連携の重要性

～令和元年度「英語教育実施状況調査」(文部科学省)～

小学校・中学校・高等学校の連携に関する状況

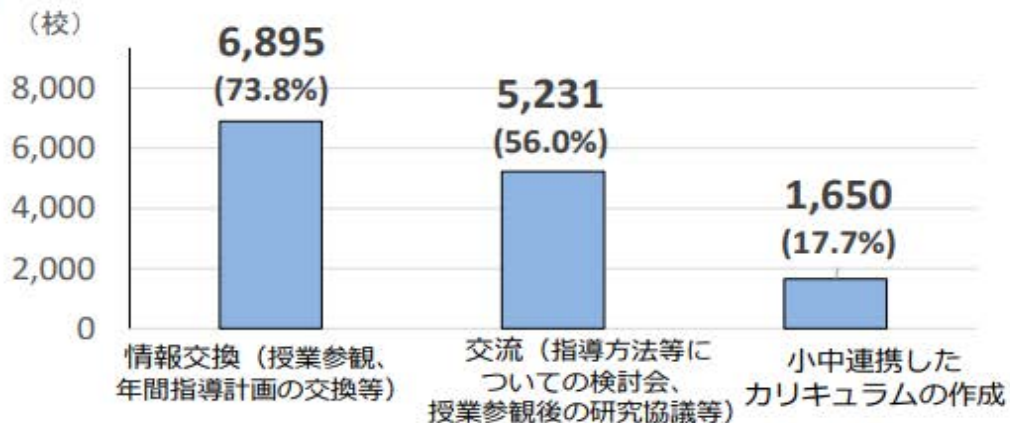
○小学校との連携に取り組んでいる中学校の割合は82.0%であり、未だに全学校には至っていない。地域によって、大きな差があることが課題。

小学校との連携に取り組んでいる中学校



※全体数は、調査対象の中学校9,340校。

【中学校と小学校との連携の形態】



※令和元年度より、全学校数を分母として割合を計算。(平成30年度までは、小中連携した(する)学校数を分母として割合を計算。)

生徒の英語力向上に向けた分析

授業改善に関する各項目(生徒の言語活動、教師の英語使用、ALTやICTの活用、小中連携等)の実施状況が高い都道府県・指定都市ほど、生徒の英語力に関する指標が高い傾向が見られる。



ご清聴ありがとうございました。

明海大学 石鍋 浩

